
一般講演・ポスター発表 P-09

ニホンイシガメとクサガメ間の雑種形成に関する研究：主に形態について

上野真太郎（東大院・農）・亀崎直樹（須磨水／東大院・農）

Study of hybridization between *Mauremys japonica* and *M. reevesii*: especially about morphology
Shintaro UENO and Naoki KAMEZAKI (*Graduate school of agricultural and life sciences, The University of Tokyo / Kobe Suma Aquarium*)

ニホンイシガメ(以下、イシガメ)とクサガメは雑種を生じることが知られおり、外来種の可能性が高まったクサガメによるイシガメへの遺伝子攪乱の影響が危惧されている。イシガメの保全を考えた場合、まずは2種と雑種を外部形態で誤りなく識別・同定する必要があるが、それらの形態的特徴を定量的に評価した研究はない。そこで今回、2種と雑種の形態を定量的に評価し、それらの形態的特徴とその差異を明らかにした。

材料は2012年5月から2013年6月に11府県29地域の河川やため池で採集したイシガメ68個体、クサガメ99個体、雑種と考えられる35個体を用いた。形態は甲羅44形質、頭骨9形質を計測した。それらの計測値から、種内での形態の雌雄差と2種および雑種の種間差の有無について検討した。雑種の特徴は、検定の結果よりイシガメ似、クサガメ似、中間型、形質差なしに分類した。なお、形態比較は、腹甲長に対する各形質の比率を用いた。

まず、種内で雌雄差が見られたのは43形質中、イシガメが30形質、クサガメが29形質、雑種が18形質であった。種間比較は、種内で雌雄差があったため、雌雄別に行った。オスは、イシガメとクサガメ間で26形質に差が見られ、雑種は、イシガメ似が5形質、クサガメ似が10形質、中間型が4形質、形質差なしが7形質であった。メスは2種間で27形質に差が見られ、雑種は、イシガメ似が6形質、クサガメ似が6形質、中間型が4形質、形質差なしが11形質であった。雑種の形態において、雌雄共通の傾向が見られる部位が存在し、腹甲後方幅は雌雄とも中間型を示した。

形態比較の結果、雑種の雌雄差が2種に比べて、少なくなっていた。よって、雑種化がイシガメの形態の性的二型を消失させる危険性が示唆された。また、腹甲後方幅はクサガメよりもイシガメが大きく、雑種はその中間を示す。したがって、腹甲長に対する腹甲後方幅の値から2種および雑種を識別できると考えられる。